

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第七中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単語テストや休み明けテスト等を定期的実施し語彙力を高め、文法事項の確認をすることができた。
- ・スピーチや英作文の発表を通し、学習した文型や語彙を使って話したり、書いたりして表現する中で、まとまった英語で表現する力をつけることができた。
- ・ALT との1対1のインタビューテストやペア・グループでのやりとりを通し、英語で意欲的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を養うことができた。

(2) 課題

- ・区の目標値と比べると結果はよいが、伸びの低い項目が学年ごとに見られたので、2学期以降の授業の中で力を入れていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回る ⇐目標値と同等 ▼目標値を下回る

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度		
第2学年	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度 ⇐ (第1学年時)	
第3学年	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度 △ (第2学年時)	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に取り組む態度 △ (第1学年時)

(2) 目標値との比較（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1～3学年 3観点のすべてにおいて、目標値を上回った。		

(3) 分析 (問題別)

学年	目標値から 10 ポイント以上回った領域	目標値と同程度または下回る領域
第1 学年	アルファベットの書き (聞く) 日常会話の理解 (聞く) 英文の読み取り (聞く) 単語の読み	英作文
第2 学年	リスニング (内容理解) さまざまな英文の読み取り 長文の読み取り 単語の並びかえによる英作文 場面に応じて書く英作文 情報に基づいて書く英作文 3 文以上の英作文	語形・語法の知識・理解
第3 学年	単語の並びかえによる英作文 3 文以上の英作文	場面に応じて書く英作文

※ 目標値を下回ったのは、第3 学年の「場面に応じて書く英作文」のみで、他の設問の正答率はすべて目標値を上回っていた。

3 分析及び授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎となる知識が身につけているのがわかる結果だった。さらに着実に知識の定着を図りながら、さらにそれを言語活動の中で活用していく機会を作っていく。	英作文は目標値を上回っていたものの、他の設問に比べるとさらに改善の余地がある。文の単位だけでなく、まとまった文章を書く練習の機会を増やしていく。	発表、ペア・グループでのやりとり、ALT との会話、ICT の活用などの機会を通して、英語を使う意欲、正しい知識や表現を身に付ける意欲を高めていく。

(2) 第2 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法の知識・理解の項目は目標値を上回っていたものの、他の設問に比べるとさらに改善の余地があった。1～2 年生の基本的な文法事項を繰り返し確認する機会を、授業の中で作る。	聞くこと・読むこと・書くことのすべての領域で高い成果が見られた。言語活動の機会を、引き続き授業の中で増やしていく。その中で使用する英語表現の正確さも高めていく。	発表、ペア・グループでのやりとり、ALT との会話、ICT の活用などの機会を通して、英語を使う意欲、正しい知識や表現を身に付ける意欲を高めていく。

(3) 第3 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングは目標値を上回っていたものの、他の設問に比べるとさらに改善の余地がある。日常的に英語の音声でのやりとりを増やし、聞き方の指導を増やす。	自由度の高い英作文がよくできていた一方、場面に応じて適切な表現を書いたり話したりする力に課題があった。さまざまな場面設定での練習を積んでいく。	発表、ペア・グループでのやりとり、ALT との会話、ICT の活用などの機会を通して、英語を使う意欲、正しい知識や表現を身に付ける意欲を高めていく。